

# 東海道原宿地区 事後評価シートの公表について

- (1) 事後評価の目的・内容
- (2) 事後評価スケジュール
- (3) 都市再生整備計画の内容
- (4) 目標を達成するために計画に位置付けた事業
- (5) 指標の達成状況の確認
- (6) 今後のまちづくり方策の検討

## ● 事後評価の目的

まちづくり交付金では、交付期間終了後の効果の持続や次のまちづくりへ展開を図るため、①まちづくり目標に対する達成状況を確認したり、②効果発現の要因を整理して  
③今後のまちづくり方策を検討することとしています。

## ● 事後評価の内容

### ①まちづくり目標に対する達成状況の確認

まちづくりの目標の達成状況および実施過程の検証を行う。

### ②効果発現要因の整理

成果と実施過程について、それぞれの評価結果に至った要因の整理を行う。

### ③今後のまちづくり方策の検討

事業の実施によって得られた効果・影響、ならびに事業実施過程を通して得られた知見を活かして、これからのまちづくりの方向性を検討する。

各評価項目の計測・  
確認方法を設定

■方法書の作成（作成済み）

■事業の成果及び実施過程の検証

まちづくりの目標の  
達成状況等を確認

①成果の評価

都市再生整備計画に示したまちづくりの目標の達成状況を検証

②実施過程の評価

結果に至るまでのチェック状況やまちづくり体制等の実施過程を検証

③効果発現要因の整理

成果に至るまでのプロセスや原因を総合的に分析

今後のまちづくりを  
検討

④今後のまちづくり方策の作成

社会資本整備総合交付金の効果を持続するためのまちづくりの方針や施策、事業等  
を検討

⑤事後評価原案の公表

調査結果を住民に公表し、意見がある場合は適切に反映

⑥評価委員会の審議

第三者により構成される沼津市事業評価監視委員会で、事後評価全般にわたる評価作業の適切さを確認

評価結果をチェック

⑦評価結果のまとめ（事後評価シートの完成）

⑧評価結果の公表と国への報告

<結果公表>

平成23年4月

～

平成24年4月予定

評価が見込みの場合、  
改善策を実施した場合  
に、改めて目標の達成状  
況を確認

■フォローアップの実施

# (1) 都市再生整備計画の内容

## 1-1 東海道原宿地区の課題及び目標

都市再生整備計画策定時の「まちの課題」及び計画を実施することによって達成すべき「まちづくりの目標」は、以下の通りになります。

### 計画策定時の課題

- 「白隠」・「帯笑園」をはじめとする歴史的資源や国道1号沿いの桜並木などの地域資源が、観光やまちづくりに十分活用されていない。
- 利便性の高い原駅前周辺の立地条件が十分に活かされていない。また、国道1号の4万台を超える交通は、地区を通過するのみで、立地条件がまちづくりに有効に活用されていない。
- 駅周辺の狭隘道路の解消と地区の南北を結ぶ道路の強化が必要となっている。また、災害時に避難が容易にできる広場等の整備や沼川流域の治水対策が必要となっている。

### 計画の目標

#### 大目標

原の歴史資源を活かした地域活性化と安全・快適なまちづくり

- 歴史的資源と地域固有の資源を有効に活用して、地域のにぎわいを再生する。
- 新たな来訪者の誘引により地域の活性化を促進するとともに交流の場を創出する。
- みんなが安心して快適に暮らし続けられる環境を整備する。

# (1) 都市再生整備計画の内容

## 1-2 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標

都市再生整備計画では、目標が達成したかについて数値指標を用いて評価を行います。

### 目標

歴史資源・地域資源の有効活用  
によるにぎわいの再生

新規来訪者の誘引による地域活  
性化の促進及び交流の場の創出

安心・快適な住環境の整備

### 目標を定量化する指標

#### 指標1:原駅の年間乗降客

従前値	2,000,000	人/年	H15年度
目標値	2,100,000	人/年	H22年度

#### 指標2:地区内のイベント参加者数

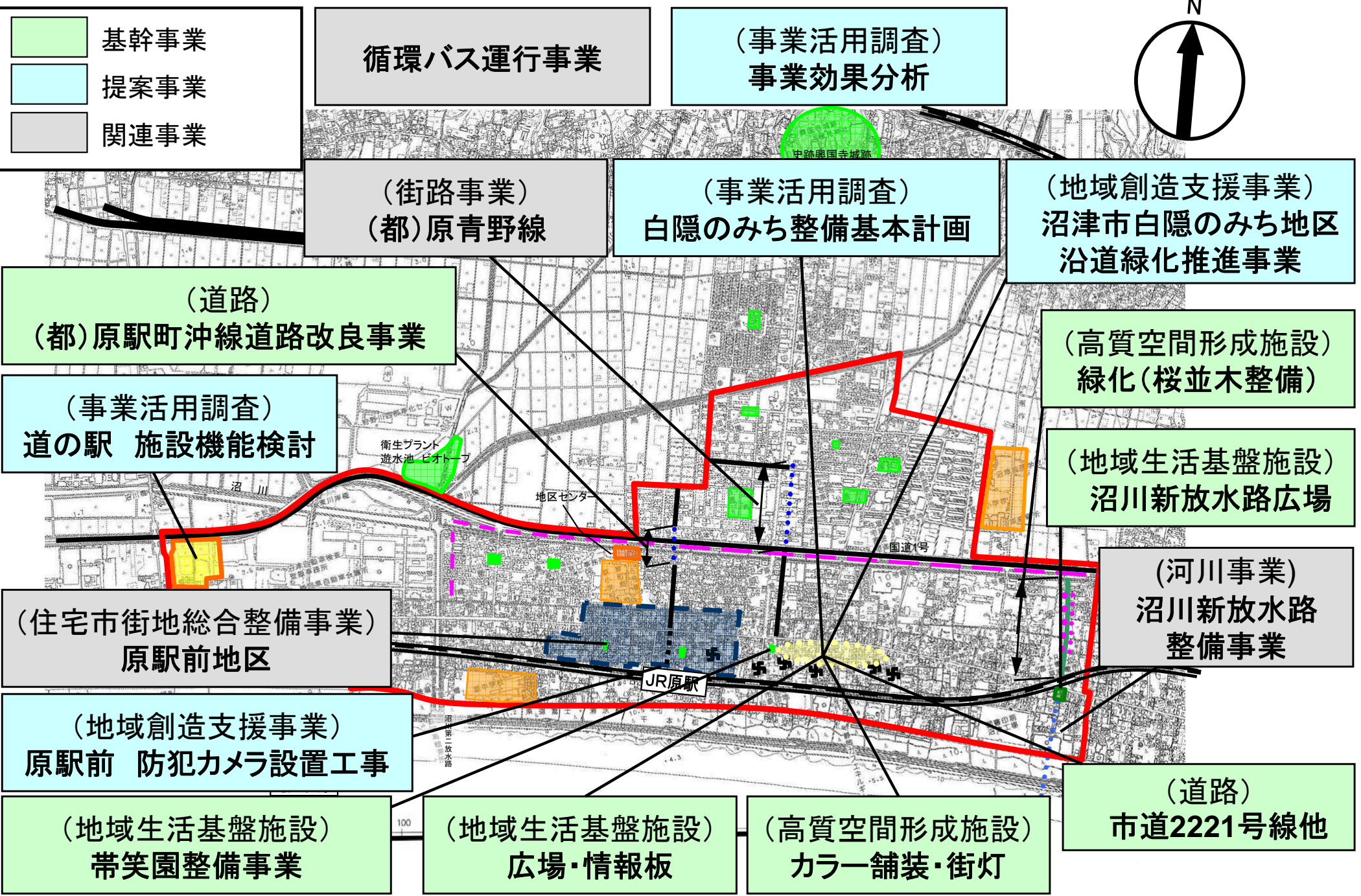
従前値	30,000	人	H16年度
目標値	35,000	人	H22年度

#### 指標3:避難地の空白地帯の解消面積比

従前値	70	%	H17年度
目標値	90	%	H22年度

—— 目標と指標の相関性大    - - - - 目標と指標の相関性小

# (2) 目標を達成するために計画に位置づけた事業



# (2) 目標を達成するために計画に位置づけた事業

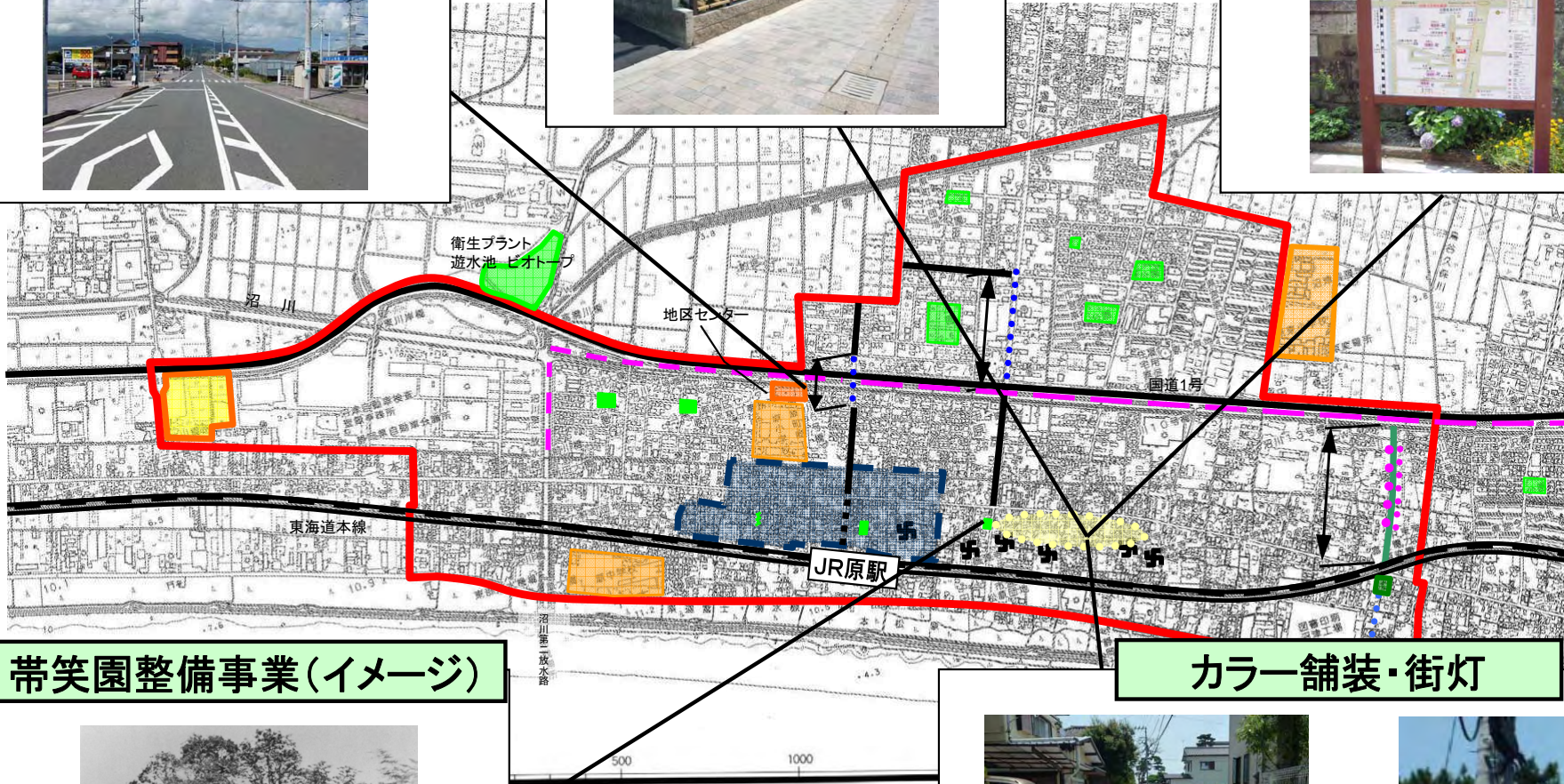
(都)原駅町沖線  
道路改良事業



沿道緑化推進事業



情報板(イメージ)



帯笑園整備事業(イメージ)



カラー舗装・街灯



## (3) 指標の達成状況の確認

### 3-1 目標を定量化する指標の達成状況の確認

都市再生整備計画に記載した3つの指標について、目標値を達成したか評価を行います。（事後評価実施時点で平成22年度の値が出ていないものについては「見込み値」として、過去の傾向等から評価を行います。）

	指標	従前値	目標値	評価値	達成度
指標1	原駅の年間乗降客	2,000,000人	2,100,000人	1,981,875人 (見込み値)	×
指標2	地区内イベント参加者数	30,000人	35,000人	33,070人 (見込み値)	△
指標3	避難地の空白地帯の 解消面積比	70%	90%	83% (確定値)	△

※ 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合



## (3) 指標の達成状況の確認

### 3-2 その他の数値指標による効果の発現状況の確認

前記の指標以外にも、事業実施による効果を確認するため、又は目標未達成の指標を補完するため、「その他の数値指標」を設定し、評価を行います。

	指標	従前値	評価値	取り上げる理由
その他の数値指標1	地域資源・歴史的資源の活用への実感度	-	66% (確定値)	▶ 目標1「歴史資源・地域資源の有効活用によるにぎわいの再生」に対する事業効果を評価する指標として設定する。
その他の数値指標2	地区内で開催される全てのイベントの参加者数	39,633人	43,593人 (見込み値)	▶ 指標2(5つのイベント参加者数)を補完する指標として設定する。
その他の数値指標3	安心・快適に暮らせる環境整備への実感度	-	81% (確定値)	▶ 目標3「安心・快適な住環境の整備」に対する事業効果を評価する指標として設定する。

## (4) 今後のまちづくり方策の検討

### 4-1 まちの課題の変化の確認

事業を実施したことによって、計画策定時点の課題がどのように変化したか、また、新たな課題が発生していないか確認を行います。

計画策定時の課題	まちの課題の変化	
	達成した課題	残された課題
既存の地域資源及び歴史的な資源の活用に係る課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白隠のみち整備事業、帯笑園整備事業、沼川沿いの桜並木の植樹によって、観光やまちづくりへの地域資源及び歴史的資源の活用が進んだ。</li> <li>・各事業の実施によって、地区の歴史に相応しいまち並みの形成が進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源や歴史的資源の活用が進み、来訪者の増加も見られるものの、地域の活性化までは至っていない。</li> </ul>
原駅前の再生と新たな交流拠点の整備に係る課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連事業の住宅市街地総合整備事業の実施によって、原駅前に良好な住宅地が形成された。</li> <li>・沼川新放水路広場整備事業によって、周辺住民が交流できる広場が整備された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白隠のみちの来訪者の交流拠点として想定していた「白隠のみち事業地内広場」の整備が用地確保の関係等で出来なかった。</li> </ul>
交通の円滑化と災害に強い安全・安心まちづくりに係る課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(都)原駅町沖線の整備、関連事業の(都)原青野線の整備及び住宅市街地総合整備事業の実施によって、地区の南北をつなぐ道路の整備、狭隘道路の改善、歩道の設置がはかられ、交通の円滑化・防災性の向上が進んだ。</li> <li>・沼川新放水路広場の整備、関連事業の住宅市街地総合整備事業の実施によって、災害時の避難地が新設され、防災性の向上が進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼川流域の治水対策、周囲に避難地が無い地域(避難地の空白地帯)の解消を行っていく必要がある。</li> </ul>

## (4) 今後のまちづくり方策の検討

### 4-2 今後のまちづくり方策の検討

「指標の達成状況」、「まちの課題の変化」等の結果を受けて、来年度以降のまちづくりの進め方の検討を行います。

まちづくりの方向性	今後のまちづくり方策
<b>地域資源及び歴史的な資源の活用</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源及び歴史的な資源の活用をさらに進めると共に、PRを強化し、さらなる来訪者の誘引をはかっていく。</li> <li>・引き続き街並みの形成に資する事業を実施すると共に、景観計画において白隠のみち地区を景観形成重点地区に位置付け、地区住民との協働による良好なまち並みの形成をはかっていく。</li> </ul>
<b>交流の促進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した広場でのイベント開催や、来訪者や住民同士が交流できるイベントを今後も継続的に開催できるよう、後方支援を行う。</li> <li>・地区の中核となる施設の整備や観光動線上に広場の整備を行い、来訪者の交流を促す。</li> </ul>
<b>安全・安心なまちづくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備した住宅地や広場が有効に活用されると共に災害時等に機能するよう、地区住民を中心とした維持・管理活動を促し、支援を行っていく。</li> <li>・沼川流域の治水対策及び避難地の空白地帯の解消をはかっていく。</li> </ul>